

音威子府村×東京大学

北海道で一番小さな村と都市圏学生とを結ぶ交流推進事業

東京大学学生との連携プロジェクト、本格始動！

本村では、今年度より村総合戦略の一環として、「北海道で一番小さな村と都市圏学生とを結ぶ交流推進事業」をスタートしました。

このプロジェクトは、地域内外との交流人口および関係人口の創出をはじめ、特に都市圏の学生らと村民との相互交流の中から、それぞれの専門性や知識、技術等を活かし、村の将来のまちづくりへとつながる機運、きっかけづくりを目的としています。

今年度については大きく2プロジェクトを展開し、「パビリオン制作」および「農業まちづくり学生受け入れ」を実施します。本事業では、村役場内の若手職員を対象、参加挙手性による、「プロジェクトチーム」を設置し、20歳代の職員4名と、東京大学の学生有志主要メンバー4名で、準備から実施までオンライン会議での打ち合わせを重ね、プロジェクトを進めています。

1)パビリオン制作

- ・パビリオン（仮設の建物）の制作を通じて、地域内外との交流推進を図るべく、第1弾として「OTOINEPPU pavilion2021」を、10/27（オンライン）・11/3・11/9（オンライン）で開催します。特に11/3は、村内でのパビリオン制作を現地で行い、その前後にはオンライン上での交流を行います。今回は、村立おといねっぶ美術工芸高校の生徒にも協力を呼びかけ、パビリオンの構成部材「ビニール傘」へのデザイン創作を生徒有志に行ってもらいます。企画実施は、東京大学工学部4年山本実南さんをはじめ計4名とともに、学生らは10/31-11/4の日程で村滞在予定です。タクティカルアーバニズムによる手法を用い、村のまちづくりの方向性を模索します。

2)農業まちづくり受け入れ

- ・村内「箴島（おさしま）」地区では、ふるさと納税返礼品としても人気のホワイトアスパラやフルーツマトの栽培が行われており、同地区での学生受け入れを行います。現在、東京大学2年生1名を受け入れ中で、平日日中は村内でのワーケーション（リモートでの大学授業受講）のかたわら、農作業手伝いや村民との交流等を行っています。11月には同大学の学生2~3名を短期受け入れ予定です。

当初、9月からの学生来村受け入れを予定していましたが、新型コロナウイルス感染症感染拡大に伴う緊急事態宣言等を受け、「オンライン」での交流企画にシフトし、zoomによる学生と村民との交流企画や、プロジェクト内の各種企画の打ち合わせを重ねてきたところです。

コロナ禍でのプロジェクト計画の大幅変更などもある一方で、オンライン会議等の普及定着により、都市と農村との新たな交流の形が生まれてきました。北海道で一番小さな村と都市圏学生との交流の中から、全国でも先駆けた交流推進事例を目指し、取り組みを進めています。

- ◆村ウェブ http://www.vill.otoineppu.hokkaido.jp/kakuka/chiikishinkou/oshirase/toshiken_koryu.html
- ◆パビリオンインスタグラム https://www.instagram.com/pavilion_otoineppu/
- ◆村ユーチューブチャンネル <https://www.youtube.com/channel/UCLq2up8fD4AgJ80vIRMiieg>

【お問い合わせ先】

北海道音威子府村総務課地域振興室（プロジェクト事務局）横山

〃 プロジェクトチームリーダー 忍穂（おしほ）

TEL 01656-5-3311

メール tiikishinkou@vill.otoineppu.hokkaido.jp